

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名

宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成				
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。				
本年度重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 豊かな心、すこやかな体を育てる教育の推進 3 生徒指導の充実 4 特別支援教育の充実 5 健康・安全教育の推進 6 教職員の資質・能力の向上と業務改善の推進による学校組織の活性化				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	C	
		ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	B	
		一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	C	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	C	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	C	
	(成果○と課題●) ○全校で取り組んでいる道徳科の研修や研究授業を通して、ねらいの明確な提示や学習形態を含めた授業改善を学び直せた。 ○読書集中期間に取り組んだ読書がんばりカードや家庭学習期間に行う読書ビンゴが読書の意欲付けになった。 ●道徳科の中間発表に向けて、教員一人一人の意識に温度差があるまま終わってしまった。 ●読書の必要性や有用感を児童自身が感じていない状態で読書への呼び掛けをしても自主的な読書活動にはつながらない。 ●家庭学習が疎かになっている児童の家庭に連絡をしたが、改善はなかなか見られなかった。 ●ふるさと学習の一環として防災教育に取り組んだが、地域と関わるができなかった。				
(改善策等☆) ☆来年度の道徳教育本発表に向けて、一人一人が学年研や授業研を確実にし、全校体制で取り組む意識を高めていく。また、部会を充実させ、背面掲示や道徳コーナーなど、学年や全校で統一したものを作成する。 ☆読書の必要性や有用感を理解させた上で声掛けを行ったり、ファミリー読書に取り組んだりするなど、家庭への啓発も行う。 ☆家庭学習が疎かになる児童には、電話連絡や懇談会など、機会を見つけて保護者と話し合い、どのように取り組ませていくかを決めていく。 ☆3、5、6年の総合的な学習の時間での防災教育について、地域の方を巻き込む活動内容を系統立てて計画しておく、より実用性のある学習になる。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	A	

生徒指導の充実

③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	C	C
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	B	
④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	C	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	B	
(成果○と課題●)					
○道徳科の授業を中心に善悪の判断やきまりなどについて、日々の生活と繋がるよう指導を心掛けた。また、道徳科と関連付けながら、相手の気持ちを考えることの大切さや公共物の取扱い方を話し合うことにより、児童の行動に変化が見られた。					
○不登校、不登校傾向児童については、サポートルームを活用して対応した。教職員だけでなく、SC、SSW、ハートなんでも相談員なども参加し、様々な対応を行えた。					
●行事等に追われ、落ち着いて何かに取り組むということが難しかった。そのため、自己肯定感を涵養するための具体的な取組も行うことがほとんどできなかった。					
●SC、SSW、ハートなんでも相談員と教員との接点が乏しいため、弾力的かつ迅速な連携が難しい。					
●生徒指導上の問題について、学級や学年だけで対応しづらい課題が見られた。					
(改善策等☆)					
☆様々な行事について、無理のない継続可能な計画を立てて取り組む。また、行事までの過程や頑張りを褒め合うことで、自己肯定感の涵養に役立てる。					
☆SC、SSW、ハートなんでも相談員と教員との定期的な連絡会や繋がり場の場を設け、弾力的かつ迅速な連携につなげていく。					
☆生徒指導上の問題など、学年間だけでなく全教職員で周知し、同じ認識で積極的に関われる体制づくりを整備していく。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	C	C
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	C	C
	(成果○と課題●) ○優先順位を考えながら仕事を進めることができた。 ○職員室の雰囲気が良く、働きやすい。時間外勤務を減らすためには、放課後の活動の改善が必要だと思われる。 ○何でも相談し合える雰囲気であると思う。SSSや地域学校協働活動推進員にサポートしていただき、ありがたかった。時間外勤務を意識した声掛けなどもあった。 ●仕事の量(校務分掌)に偏りがあると思う。優先順位をつけて仕事をしているが、なかなか時間外勤務が減らない。 ●時間外勤務を前提とした取組が多く、早急な見直しが必要である。					
	(改善策等☆) ☆学校全体として、仕事量やすべき仕事の取捨選択を行い、全教職員の業務改善につなげる。 ☆SSS、SSW、SGRなどの方に積極的に手伝っていただき、教職員の負担を減らす。そのために、SSSやSSWやSGRの職務を共通理解する場を設ける。 ☆平日の課外活動の実施方法や、週休日・祝日の課外活動を原則取りやめることを検討する。 ☆生徒指導上の問題など、学年間だけでなく全教職員で周知し、同じ認識で積極的に関われる体制を整備していく。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	B
				・教師アンケート	B	
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート	B	

連携

②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	B	

地域との連携

(成果○と課題●)

○学校運営協議会に参加し、学校外の児童の様子や協議会参加者の考えを知ることができたので、有意義であった。

○学校運営協議での熟議、にぎたまサポーターのボランティア活動や防災教育など、地域学校協働活動の推進に努めた。

○小さな出来事でも、児童・保護者との関係性を鑑みた上で、こまめな連絡を心掛けた。その結果、保護者との接点も増え、良好な関係の構築・維持に繋げることができた。

●ホームページの更新を任せきりで、自分ですることがあまりできなかった。

(改善策等☆)

☆定期的にホームページを発信できるように発信する曜日等を定める。

☆月に一度は、ホームページの学級の内容を更新する。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満